

電氣通信施設共通基盤 DB 運用仕様

本資料は、電気通信施設共通基盤 DB(以下「共通基盤 DB」)において、点検用 ASP と連携する際の重要なルールと留意点をまとめたものです。点検用 ASP 利用者は、以下のとおり業務を行う前提としています。

1. データの登録・更新に関する運用ルール

本 WebAPI では、データを 1 件ずつ追加するのではなく、「常に最新の全データをまとめて扱う」仕組みとしています。

・ 全件一括処理が原則です

点検対象や項目が増減した場合でも、その差分だけを送信する機能はありません。共通基盤 DB から最新データを「全件一括ダウンロード」し、手元の点検用 ASP で結果を入力した後、再度「全件一括アップロード」することを前提としています。

・ 年に複数回点検する場合

年度内に同じ設備を複数回点検する場合も同様です。その都度、最新データを全件取得し、前回までの結果が含まれていることを確認してから、今回の結果を登録することが必要です。

・ データの修正方法

一度登録したデータに記入漏れや間違いが見つかった場合は、WebAPI 上の「修正フラグ」を使用して、正しいデータを再度アップロードすることで上書き更新が可能です。

2. 写真・添付ファイルの取り扱い

写真や資料の登録には、ファイルサイズや登録方法、過去データの扱いに制約があります。

・ ファイル容量と形式

1 ファイルあたりの上限は「10MB」です(仕様書記載の 10MG は誤記です)。対応形式は、jpg, png, gif, bmp, tiff などの一般的な画像ファイル形式を前提としています。

・ 登録は「装置ごと」に行う

写真は施設全体でまとめて提出するのではなく、個別の装置(点検結果シート)ごとに紐付けて登録することとしています。施設単位で一括管理する機能は、将来的な開発対象となっています。

・ 過去のファイルはシステムから取得不可

過去の年度の添付ファイルを、点検用 ASP 経由でダウンロードすることはできません(機能未実装)。過年度の資料参照が必要な場合は、点検用 ASP 外(メールや媒体等)で発注者からデータ提供を受ける必要があります。

3. セキュリティと通信環境について

通信方式の現状と、アクセス集中時の対応について補足します。

- ・ **通信方式(HTTP/HTTPS)について**

現在、共通基盤 DB・WebAPI 全体の通信経路を暗号化(HTTPS 化)する改修を計画中ですが、一部の機能(データの取得・登録等)においては従来の通信方式(HTTP)が残っています。現時点では、仕様書に記載されている接続先 URL(HTTP/HTTPS)のとおりを設定し、運用をお願いします。完全な暗号化への統一は、次年度以降に対応検討予定です。

- ・ **混雑時のアクセス制限とスケジュール調整**

繁忙期(年度末等)にアクセスが集中し、WebAPI の応答が遅くなることを避けるため、点検用 ASP 利用者に対して、データのアップロード等のスケジュール調整をお願いする場合があります。

4. 契約・管理情報の取り扱い

WebAPI を利用するために必要な ID 等の情報は、以下のとおり取り扱います。

- ・ **業務 ID 等の提供について**

WebAPI 上では、業務を「10 桁の数値 ID」のみで管理しており、契約件名(業務名称)は表示されません。WebAPI 上で契約案件を特定するための ID(外部連携用業務名 ID)並びに共通基盤 DB との連携に必要な整備局 ID・事務所 ID については、業務契約後速やかに、発注者より別途提供されます。受注者は提供された ID を使用し、共通基盤 DB との連携を行ってください。

- ・ **施設・設備番号の確認**

点検対象の食い違いを防ぐため、発注仕様書のリストには共通基盤 DB 上の「施設番号」および「設備番号」が明記されます。これらを元に、現場の設備とデータの照合の必要があります。

5. その他、入力時の留意点

- ・ **日付の入力形式**

箇所によって「YYYY/MM/DD」と「YYYYMMDD」の形式が混在しています。現時点では仕様書の記載どおりに入力いただく必要があります(将来的に統一を検討中です)。

- ・ **業務フローの確認**

WebAPI の機能と一般的な業務マニュアルの手順に一部食い違いがあります。別途提示される「標準的な業務フロー図」に従って業務(完了検査等)を進めていただく前提です。